

未来がよりよくあるために

所属	愛知県江南市立古知野南小学校	実践者	加藤 千智
対象	小学6年生	時間数	7時間
場所	教室	実践教科	国語
ねらい	私たちの生活が世界とつながっていることを知り、よりよい未来をつくる一人として自分にできることを考え、意見文にまとめる。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	◆ よりよい未来ってどんな未来？ ①「平和のとりでを築く」を音読し、学習の見直しをもつ。 ②原爆ドーム保存についての賛否を教科書から読み取る。 ③原爆の傷跡を保存することについての自分の考えを書く。	
	2	◆ 世界の平和について考えてみよう ①「平和のとりでを築く」に書かれた筆者の主張を読み取る。 ②見聞きしている世界情勢について話し合い、平和についての自分の考えをまとめる。	
	3	◆ 世界は広い！いろいろな国や文化がある！ ①グループ対抗で白地図に知っている国名を書き込む。 ②エチオピアの写真や統計資料から、日本との違いについて話し合う。	・野外民族博物館「リトルワールド」での活動写真 ・エチオピアで撮った写真 ・エチオピアと日本の対比表
	4	◆ 学校に通う意味ってなんだろう ①エチオピアの小学校の就学率が95%であることを知る。 ②「1日1.25ドル以下の暮らし」を読み、絶対的貧困の問題を抱えていることを知る。	・エチオピアで撮った写真 ・「1日1.25ドル以下の暮らし」
	5	◆ 貧困ってどういうこと？私たちの生活と関係ある？ない？ ①貿易ゲームの説明を聞く。 ②貿易ゲームを通して、分かったことを話し合う。	・貿易ゲームセット
	6-7	◆ 未来がよりよくあるために～私たちにできることを考えよう～ ①休み時間や家庭学習で得た情報も活用しながら、世界の情勢や課題について考え、自分にできることは何かを考える。 ②一人一人が未来をつくる担い手であることを意識し、友達の意見文と読み比べる。	
成果	エチオピアの抱える課題を写真や統計資料から読み取り、世界の絶対的貧困について考えるきっかけとなった。また、貿易ゲームを通して、自分の生活と世界のつながりに気付き、多面的・多角的にこれからの未来について考えることができた。		
課題	子どもたちが触れている世界情勢に関する情報量には差があるため、持続可能な社会を目指すための課題をより身近に感じさせるための魅力的な教材を精査していかなければならない。		
備考	総合的な学習の時間において、「世界に学ぶ、世界発見！」というテーマを設定し、加速度的にグローバル化の進む世界の現状について調べ学習を行った。		

[授業実践の詳細]

1 時限目「“よりよい未来”ってどんな未来？」

この時限のねらい

- ・「平和のとりでを築く」を読み、原爆ドームが伝えているメッセージを考える。
- ・原爆ドームが世界遺産に登録されたことを踏まえて、「よりよい未来」について自分の考えをもつ。

1 子どもの活動の流れ

- ① 「平和のとりでを築く」を音読し、学習の見通しをもつ。
- ② 原爆ドーム保存についての賛否を教科書から読み取る。
- ③ 原爆の傷跡を保存することについての自分の考えを書く。

「平和のとりでを築く」要旨

多くの人々の平和を願う心によって、原爆ドームが保存されるまでの経緯を述べながら、原爆ドームは、それを見る人の心に平和のとりでを築くための世界遺産なのだと伝えたい。(6年国語光村図書)

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 平和のメッセージを伝える原爆ドームだが、戦後まもないころの広島では、保存することに反対する人々がいて、「原爆ドームがあることで、戦争を思い出してつらい」という反対意見のあったことを知ることができた。
- ◇ 被爆した人にとって、原爆ドームを見るたびに、原爆が落とされたおそろしい記憶がよみがえるに違いないという理由から保存に反対する児童がいた。一方で、原爆ドームしか原爆のおそろしさを伝えることのできるものはないと考える児童もいた。
- ◇ 子どもたちは、世界遺産としての原爆ドームの価値に気付き、平和な未来をつかっていきたいという思いを互いに伝え合うことができた。

【子どもたちの感想】

- ・私は過去の日本の歴史を知って、改めて日本の未来について考えていかなければならないと思いました。いろいろな人の思いがあって、今の日本があると思います。
- ・私は、笑顔や優しさがあふれる未来をつかっていきたいです。すぐにはつくれなくてもいいけれど、笑顔や優しさを意識して身近な人、そして世界中に広めたいです。「平和のとりでを築く」を読み、家族や友達といられるのは平和があるからだと思っていました。

2 時限目「世界の平和について考えてみよう」

この時限のねらい

- ・「平和のとりでを築く」を読み、世界の平和を求める筆者の強い気持ちを読み取り、自分なりの考えをもつ。

1 子どもの活動の流れ

- ① 「平和のとりでを築く」に書かれた筆者の主張を読み取る。
- ② 見聞きしている世界情勢について話し合い、平和についての自分の考えをまとめる。



<教科書から読み取っている様子>

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 世界の人々の平和を求める強い気持ちを伝えようとする筆者の考えを読み取ることができた。

- ◇ 普段は世界中で起きている紛争や自爆テロの報道を聞き流している子どもたちが、平和についてじっくり考えることができた。

【子どもたちの感想】

- ・筆者のメッセージに対して、私は、世界の人々がどれほど強く平和を求めているのか疑問に思いました。理由は、世界中で紛争や事件がたくさん起きているからです。本当に平和を思う気持ちは強いのか、平和のために人を傷つけてもよいのか、疑問に思います。
- ・私も世界の人々は平和を求めていると思います。夏休みに自由研究で JICA の行っている取組について調べました。毎日、地雷のうまっている通学路で学校に通っている子がいることを知りました。その子どもたちも平和を求めていると思います。
- ・原爆ドームが世界遺産に選ばれたことで、戦争がなくなり、平和になってほしいというメッセージが世界中に広がってほしいと思います。「もしも、原爆ドームのような建物が世界中にあったらどうするの」と私たちに訴えているように思いました。

3 時限目「世界は広い！いろいろな国や文化がある！」

この時限のねらい

- ・世界には、日本と文化の異なる国があることを知る。
- ・日本から行くのに14時間かかる、遠く離れたエチオピアの文化にふれる。

1 子どもの活動の流れ

- ① グループ対抗で白地図に知っている国名を書き込む。
- ② エチオピアの写真や統計資料から、日本との違いについて話し合う。



<グループで国名を書き込んでいる様子>

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 学校に通えていない5%の子どもたちが増え続けることの影響について派生図にまとめ、自分たちが学校に通う意味について考えることができた。
- ◇ 校外学習で行った野外民族博物館「リトルワールド」での民族衣装を身に付けた体験を想起しながら、エチオピアの生活や文化について関心をもつことができた。



<校外学習での様子>



<エチオピアを紹介する様子>

- ◇ エチオピアに関する写真や統計資料を見て、日本と比較しながらエチオピアという国についての印象を話し合うことができた。

【子どもたちの感想】

- ・世界には、日本とは文化の全く違う国や似ている国があるのだと思いました。写真や表から食べ物も国によって変わり、日本がとても豊かであることが分かりました。
- ・世界には、たくさんの国があるけれど、その中でエチオピアは、貧困率や国民総所得から経済状況がよくないと感じました。世界の国々がもっと経済面で協力して、それぞれ何ができるかを考えて行くことがよりよい未来に続いていくのだと思います。

3 使用した教材

- <教材1> 野外民族博物館「リトルワールド」での民族衣装体験をしている写真
- <教材2> エチオピアで撮った写真〔ホテル(室内)の様子、食事(コーヒー、インジェラ)〕
- <教材3> エチオピアと日本の対比表〔基本情報(首都、民族、人口、公用語など)〕

4 時限目「学校に通う意味ってなんだろう」

この時限のねらい

- ・エチオピアの子どもたちにとって、また自分たちにとっての学校に通うことの意味について考える。
- ・エチオピアが絶対的貧困という課題を抱えていることを資料から読み取る。

1 子どもの活動の流れ

- ① エチオピアの小学校の就学率が95%であることを知る。
- ② 「1日1.25ドル以下の暮らし」を読み、絶対的貧困の問題を抱えていることを知る。



<派生図にまとめている様子>

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 学校に通えていない5%の子どもたちが増え続けることの影響を派生図にまとめ、自分たちが学校に通う意味について考えることができた。
- ◇ 「1日1.25ドル以下の暮らし」を読むことで、絶対的貧困の意味を知り、電気がない暮らしにたえられるだろうか、1日140円の暮らしができるだろうかなど自分たちの生活をふりかえりながら話し合うことができた。また、世界の限りある資源を大切にしなければならないと考える子どもも多くいた。

【子どもたちの感想】

- ・この授業を終えて、学校に通うということが、どういうことなのか改めて考えました。今、私たちが豊かで平和な暮らしができていても誰かのおかげだと思いました。学校に行くことで、楽しい気持ちになるし、学力も上がって自分のためになると思うので、学校に行くことが平和であり、豊かな証拠だと思いました。
- ・学校に行かなければ、文字も読めない、書くこともできないので、その後の生活や人生に大きく関わってくると思います。今、自分たちが学校に行き勉強していることが大切なことだと改めて分かりました。

3 使用した教材

- <教材1> エチオピアで撮った写真〔教室、運動場、理科室、子どもたちの笑顔、水くみをしている様子〕
- <教材2> 『1日1.25ドル以下の暮らし』(「地球のみかたー地球について学ぶカリキュラム」/パメラ・バツサン、アンドレア・ドイル共著/ERIC 訳を参考に NIED 作成)



<派生図(学校に通えない5%が減っていったら)>



私たちは電気をとめて、使っているものすべてを省いていくことから始めましょう。部屋に残るのは、数枚の毛布、食卓と木製の椅子くらいです。 (「1日1.25ドル以下の暮らし」より)

5 時限目「貧困ってどういうこと？私たちの生活と関係ある？ない？」

この時限のねらい

- ・貿易ゲームを通して、構造的貧困について考える。
- ・私たちの生活が工業製品や農業製品を通して、世界とつながっていることに気付く。

1 子どもの活動の流れ

- ① 貿易ゲームの説明を聞く。
- ② 貿易ゲームを通して、分かったことを話し合う。

国	人数	作るもの
裕福国グループ	2人×1グループ	車
中間国グループ	5人×2グループ	シャツ
貧困国グループ	7人×3グループ	バナナ



<貿易ゲームに取り組む様子>

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 貿易ゲームを通して、貧困国グループはなかなか売り上げを伸ばすことができず、抜け出せないという構造的貧困を体験することができた。また、最初は戸惑っていた子どもたちだが、ゲームを続ける中で相手国と交渉しながら製品を作るという仕組みについても気付くことができた。

【子どもたちの感想】

- ・今日の授業を通して、お金をもうけることがとても大変な貧困の国と一つ工業製品を作ると大きな利益を得ることのできる裕福な国があるのだと分かりました。私が、もし、もうけることが難しいグループの一員だったとしたら、がんばって一つ作ってもお金がもうからないから、とても悲しいです。世界の未来につなげていくためには、どちらのグループも平等な関係にしたいと思います。
- ・世界には、裕福な国もあれば、貧困の国もあるのだと一番感じました。そして、私は、つい自分の事ばかり考えてしまいました。よりよい未来をつくっていくためには、相手国のことも考えないといけないし、相手国につくしてばかりでもいけない。そうした考え方のできる人が増えていけば、格差のない平和な世界や未来が作っていくのだと思います。

3 使用した教材

<教材1> 「貿易ゲームセット」開発教育・国際理解教育ハンドブック

6-7 時限目「未来がよりよくあるために～私たちにできることを考えよう～」

この時限のねらい

- ・これまでの学習を通して、よりよい未来のために自分ができることを意見文にまとめる。
- ・友達の意見文を読み、互いの考えを認め合う。

1 子どもの活動の流れ

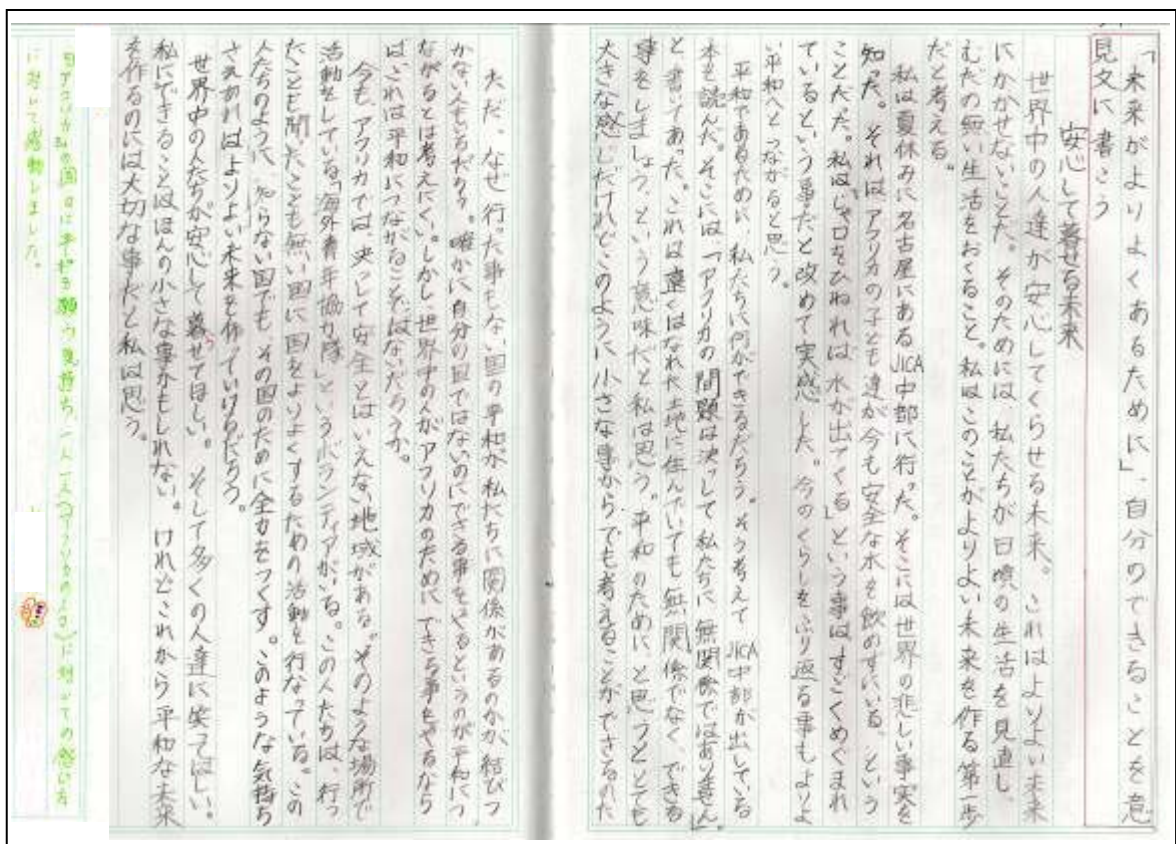
- ① 休み時間や家庭学習で得た情報も活用しながら、世界の情勢や課題について考え、自分にできることは何かを考える。
- ② 一人一人が未来をつくる担い手であることを意識し、友達の意見文と読み比べる。



＜意見文を読み合う様子＞

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 20人に1人が学校に行けないというエチオピアの現状を知り、豊かな国がもっと増えるとよいという願いを語る子や日本のように蛇口をひねれば水が出る安心して暮らせる未来であってほしいという願いを語る子もいた。学級の全ての子どもたちが自分にできることは、ほんの小さなことかもしれないけれど、世界中の人たちが笑って暮らせる未来を願う気持ちとなって授業を終えることができた。



＜まとめの意見文＞